

真ん中に立ちなさい

奨励	川上 盾〔かわかみ・じゅん〕
奨励者紹介	日本キリスト教団東神戸教会牧師

イエスはまた会堂にお入りになった。そこに片手の萎えた人がいた。人々はイエスを訴えようと思って、安息日にこの人の病気をいやされるかどうか、注目していた。イエスは手の萎えた人に、「真ん中に立ちなさい」と言われた。そして人々にこう言われた。「安息日に律法で許されているのは、善を行うことが、悪を行うことか。命を救うことが、殺すことか。」彼らは黙っていた。そこで、イエスは怒って人々を見回し、彼らのかたくなな心を悲しみながら、その人に、「手を伸ばしなさい」と言われた。伸ばすと、手は元どおりになった。ファリサイ派の人々は出て行き、早速、ヘロデ派の人々と一緒に、どのようにしてイエスを殺そうかと相談し始めた。

(マルコによる福音書 3章1―6節)

イエス・キリストが片手の萎えた人を癒した、そんな出来事が書いてある聖書の箇所です。はたしてイエスに本当にそんな力があったのか、また、もしあったとして、どんな風に癒しが起こったのか。興味ある人もいるかもしれませんが、今日はそこには触れません。

またイエスがその人を癒したのが「安息日」だった。安息日にしてはならない労働（治療行為）をしたことによって、イエスは「おきて破り」のレッテルを貼られます。そしてそのために律法学者たちから命を狙われることになるのです。なぜイエスは安息日の決まりを破ったのか。これも大事なポイントですが、今日はそこにも触れません。疑問に思う人は越川先生に質問に行ってください。

真ん中に立ちなさい

今日注目したいのは、会堂に片手の萎えた人がいた。その人にイエスが投げかけた言葉です。イエスは何と言ったでしょう？「真ん中に立ちなさい」そう語りかけたのです。片手の萎えた人。いわゆる「しょうがい者」です。昔の人の考え方のなかにおいては、このようなしょうがいをもった人（歩けない人、目が見えない人、耳が聴こえない人など）、あるいは重い病気の人というのは、「本人や両親・祖先が罪をおかしたためにその罰が降ったのだ」そんな風に考えられていました。今はとんでもない考え方ですが、科学の発達していない昔の人は、病気や身体が不自由になった原因をそんな風に考えていたのです。この片手の萎えた人も、周囲の人びとのそのような視線を敏感に感じていたでしょう。神さまに祈るために、会堂にやって来た。でも「健常者」を押しつけて祈りの場に進むことなどできずに、片隅でひっそりとたたずむのが精一杯だったことでしょう。そんな彼にイエスは言われるのです。「真ん中に立ちなさい」。これは片手が不自由なためにコンプレックスを感じて、堂々と生きることができなかったその人に向けての、「人生肯定」の言葉です。イエスはこの言葉を通して「あなたはあなたであっていい。自分の自信をもって、真ん中を歩いて生きなさい。神さまはそんなあなたをきっと受け入れて下さるよ」。そんなことを語りかけているのだと思います。

いじめられっ子、ステファニー

今日は皆さんに一人の人を紹介したいと思います。ステファニー・ジャーモノッタさん、現在27歳。イタリア系アメリカ人の女性です。彼女は幼い頃から背が人よりも少し低かった。その上少しユニーク（個性的）な性格だったために、周囲の友人たちの輪の中で浮いてしまい、小学校・中学校の頃はいじめられっ子だったそうです。ある日みんなでピザ屋さんでピザを食べに行ったとき、背の小さなステファニーは、同級生のいじめっ子にかつがれてしまい、ピザ屋のゴミ箱に放り込まれたことがありました。悔しくて泣きそうだったけれど、ここで泣いたらよい負け犬になってしまうと思い、クラクラ笑って、「わたし、こんなこと、全然平気なのよ!」というような顔をしながら、心のなかでは声にならない声で泣き叫んでいた。そんな体験もしたそうです。それでも彼女はへこたれないで、自分の道を歩み続けました。そんな彼女を支えたひとつの言葉があったのです。それは彼女のお母さんが、毎晩寝る前に鏡の前で髪の毛をとかしながら、いつも語りかけてくれた言葉でした。「いい？ステファニー、人は誰でも自分の人生においてはスーパースターになることができるのよ。神さまは、そんな風に私たち一人ひとりの人間を作られたの。きっと神さまは間違えたりはしない」。この言葉をいつも心の支えとして、ステファニーはたび重なるいじめにも耐えて、自分らしく生きることができたのです。

新しい生き方を目指して

音楽が大好きだったステファニー。高校にはいるとピアノを弾きながら歌を歌うようになりました。そしてメキメキ腕を上げて、難関であったニューヨークの音楽大学に合格することができたのです。その学校は結局中退してしまうことになるのですが、歌がとっても上手になったステファニーは何枚かのCDを、本名「ステファニー・ジャーモノッタ」のクレジットでリリースしました。・・・でも、売れなかった。「歌がうまい」それだけで売れるほど、ショービジネスの世界は甘くはなかったのです。けれどもステファニーはへこたれませんでした。「歌は決してやめない。いつの日かきっと有名になって、そして幼い頃から自分を支えてくれたあのお母さんの言葉を歌にするんだ!」そう心に決め、何かうまい方法はなにか考えました。「そうだ!きっと名前（本名）が印象深くないんだ。もっと違う、印象的な名前を考えればいいんだ!」そう思いついて、歌の活動を本名から新しいステージネームに切り替え、新曲を発表しました。さらにステージ衣装を、少し派手な、一風変わったスタイルに切り替えました。すると少しずつ彼女の歌とパフォーマンスは人びとの評判となり、次第にヒットを飛ばすようになり、ついには世界中の人が彼女の歌声に注目することになりました。名声を得た彼女は、ついに自分で作った歌のなかに、あのお母さんの言葉「人は誰でも自分の人生においてはスーパースターになれる。きっと神様は間違えたりはしない」を歌にすることができました。今では世界の多くの人が一度は聴いたことのあるものとなっています。

“Lady Gaga”

もう誰のことが分かった人がいるでしょう。本名はステファニー・ジョアン・アンジェリーナ・ジャーモノッタ。彼女が大好きだったイギリスのロック・バンドの曲名から名付けられたステージネーム、それは、“Lady Gaga”。お母さんの言葉を含んだ歌のタイトルは“Born This way”、「この道に生まれて」。この歌は彼女の人生そのものなんです。2011年3月11日、東日本大震災、それに続く福島原発の事故による放射能漏れ。大変なことが起こったときに、来日を予定していたアーティストたちのキャンセルが相次いだ時期がありました。しかし彼女は当初の予定通り6月に来日し、未曾有の災害で心が沈んでいる日本人たちを、歌声を通して励まそうとしてくれました。自分自身がいじめをうけるという辛い体験を何度もしていた。そんな彼女だからこそ、辛い思いをしている人への想像力と共感が生まれてくるのだと思います。彼女の勇気ある行動は、被災地の人びとははじめ、日本の多くの人にも支えとなる力を注いでくれたと思います。彼女をずっと支えたお母さんの言葉、「人は誰でも自分の人生においてはスーパースターになれる。きっと神さまは間違えたりはしない」。幼いステファニーに語られたこの言葉は、イエスが「真ん中に立ちなさい」と片手の萎えた人に向けて語られた、あの人生肯定の言葉と同じ意味合いをもつものではないかと思うのです。

あなたも人生の「真ん中」を

皆さんも、自分の人生を歩むとき、コンプレックスや引け目を感じる瞬間があるかも知れません。自分に自信がもてずに悩む。時には自分の存在意義が見えないで、「ひょっとしたら自分なんて、この世に生まれてこなくても良かったのではないだろうか」そんな風に思い詰めることがあるかも知れません。でもね、これは、はっきり言いますよ。「それは、間違いです!」神さまの目から見たときに、この世に生まれてこない方が良かった人間なんてひとりもいない!この言葉をどうか憶えておいて下さい。どんな人も、自分の人生においては真ん中を歩くことができます。スーパースターになることができます。誰が認めてくれなくても、そのままのあなたを見つめて肯定してくれる存在がある。それがイエス・キリストであり、神さまなんだ。僕はそう信じています。どうか皆さん、自分の生まれた自分の道を、真ん中を歩いて行って下さい。決してあきらめないで、一歩ずつでも、少しずつでも進んで下さい。人と比べなくてもいい。かっこ悪くてもいい。それでもあなたの道を歩み続けたその先に、あなただけの、あなたしか知らない、豊かな人生が広がっていることでしょう。最後に、Lady Gagaの“Born This way”を僕が日本語に訳したものを歌います。歌い終わったらお祈りをしますので、そのまま黙祷して下さい。